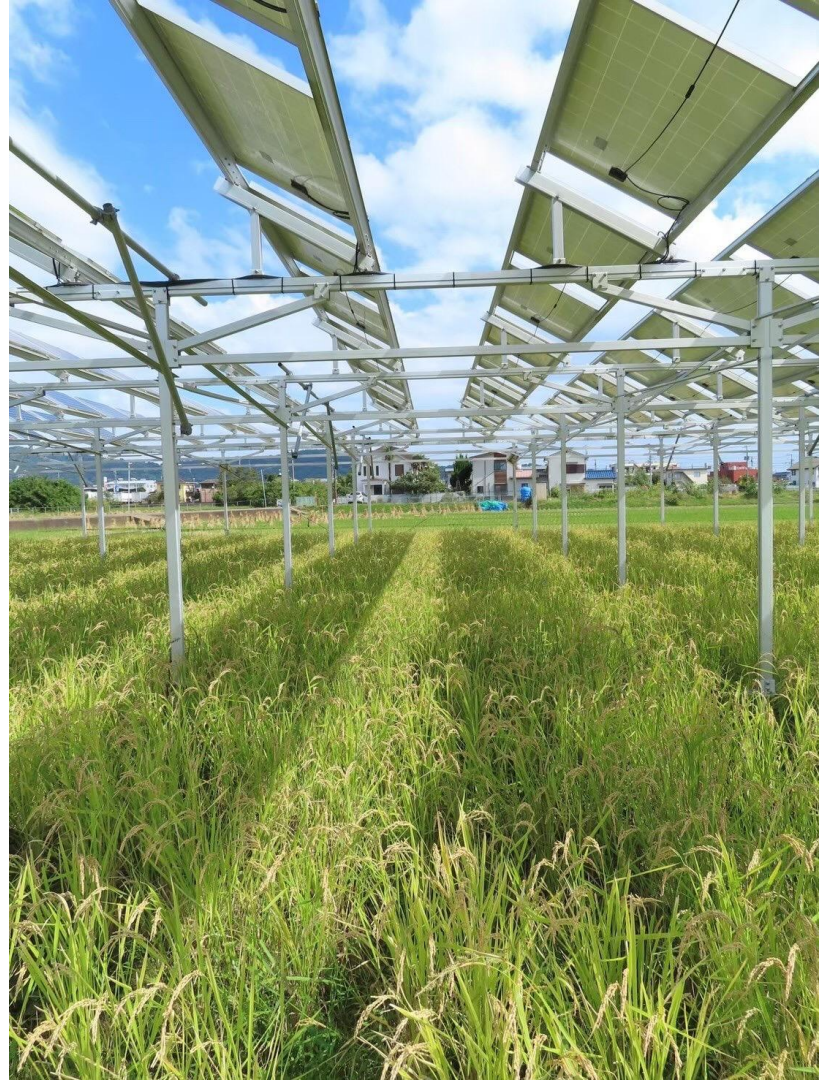


市民・地域共同発電所全国フォーラム2023

顔の見える暮らしを取り戻す
小規模ソーラーシェアリング

@合同会社小田原かなごてファーム



目次

- プロフィール
- 取組みの紹介
 - 各組織の取組み
 - 松田町ソーラーシェアリング検討協議会
 - Z世代による発電所建設プロジェクト
- 今後の普及に向けて



Profile

長谷川諒（はせがわまこと）

○ 活動エリア

愛知県出身→横浜市→多拠点生活

→ **神奈川県西部**（南足柄市）へ

○ 略歴

大学時

卒業後

～現在

キャリア支援団体の立ち上げ等。研究テーマは「貧困格差・気候変動・ポスト資本主義」。

IT企業でシステムの設計・開発に従事しつつ、社会課題の個人研究や政策提言活動。

持続可能な社会を実現すべく、日本各地をフィールドワークした後、

✓ 気候変動対策の推進（ソーラーシェアリング、コンサル等）

✓ 酒匂川流域の一次産業領域（農業・林業・エネルギー）を軸に、

地域の自律的な持続可能性モデルを探求・実験中。好きなものは、本と餃子と木目。

○ 所属（&フリーランス）

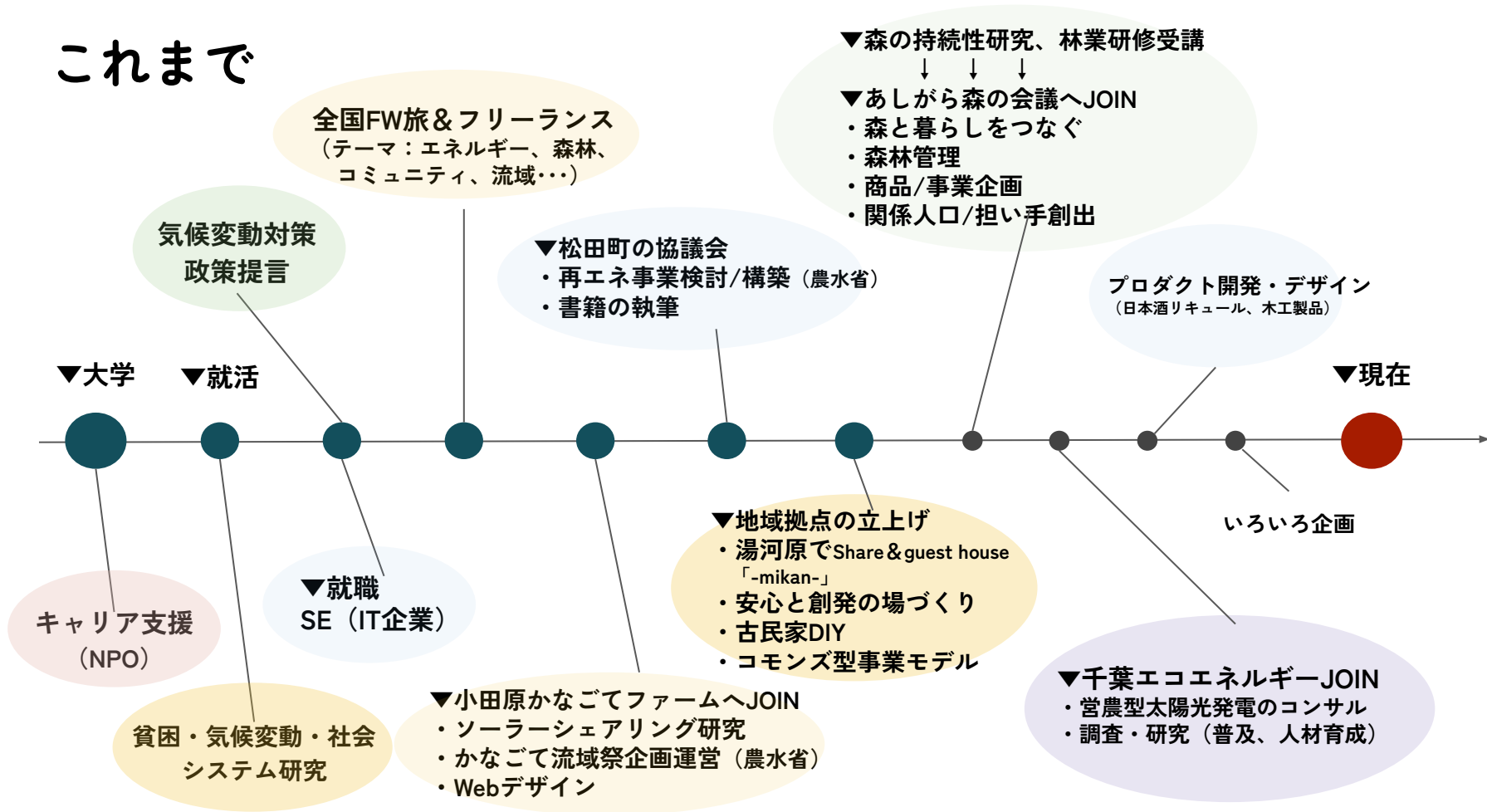
・ **合同会社小田原かなごてファーム**

・ 千葉エコ・エネルギー株式会社

・ 株式会社あしがら森の会議



これまで



3つの場所で模索中

- ① 合同会社小田原かなごてファーム
- ② 千葉エコ・エネルギー株式会社
- ③ 株式会社あしがら森の会議

① 小田原かなごてファーム

- ソーラーシェアリングの立上げ
- 松田町ソーラーシェアリング検討協議会
- 自然栽培での農業、体験の提供
- 社会起業家育成プログラムの企画運営
- 流域祭&SDGsマルシェの企画運営



② 千葉エコ・エネルギー

- ソーラーシェアリングのコンサルティング、調査、各研究所との共同研究
- 温暖化対策支援等
- その他



千葉エコ・エネルギー株式会社

③ あしがら森の会議

- 森林の管理・施業
- 林業の担い手育成研修
- 企業研修/環境教育機会、スタディツアーの企画運営
- 木工プロダクト開発



合同会社小田原かなごてファームの紹介

合同会社小田原かなごてファームとは？

○ 耕作放棄地を再生・環境配慮型農法

ソーラーシェアリング

...農地での営農と発電を両立させるモデル
...荒廃農地の再生にも活用されている。

みかんの栽培・収穫体験

...みかん山を再生し、自然栽培でみかんを栽培
...おひるねみかんジュースの販売・ブランド化

自然栽培米の生産・収穫体験

...耕作放棄地を再生し、自然栽培でお米を栽培
...日本酒「推譲」の販売
...スパークリング「zzZ」の販売



「育てた自然栽培米は日本酒にも」

日本酒「推譲」



おひるねみかん酒 スパークリング

おひるねみかん酒スパークリング

z
z
z

まけ
お酒

リモールド(発泡性)①
アルコール分4%以上5%未満
果汁15%

▼詳細はこちら



ソーラーシェアリング
発電所

(地権者 & 発電事業者)



お米



再エネ

井上酒造
(地元酒造)

※製造工程
も脱炭素



ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）

#気候変動対策×農業

● ソーラーシェアリングとは…？

農地の上部に太陽光パネルを設置し、
農地で農作物と再生可能エネルギーの両方を生産する
農業と地球の持続性に貢献する事業モデル。

● 社会課題解決の方法としての大きな可能性

- ・ 地域経済の活性化（食エネの地産地消）
- ・ 農家の経済的自立（売電収入を得られる）
- ・ 再エネの普及（気候変動の緩和）
- ・ 地域のレジリエンス向上（食エネ自給率向上）
- ・ 災害時の避難所にも。
- ・ 小規模なら誰もが担い手になれる。



現在：5機を運用、6号機手続き中、7号機計画中

合同会社小田原かなごてファーム

農家カフェ「シエスタ」の運営

- ...食とエネルギーの産直レストラン
- ...地域の人が集う場に



まちづくり

- ・「松田町ソーラーシェアリング検討任意協議会」
- ・「かなごて流域祭&SDGsマルシェ」の開催



森×エネルギー×農業の可能性実験

木製架台の実証実験中。

(…ソーラーシェアリングの導入および普及にあたって、実践者、知見者、行政職員、大学教授、電力会社、金融機関、地元農家などをメンバーに事業のモデル化・社会経済的効果を検討。林業の持続性に関わる木製架台も実証実験。)



持続可能な農業の実験 #農業

これまで当たり前とされてきた農業の手法は、気候変動、生物多様性、水・食糧問題等への悪影響が明らかとなり、持続可能な農法への転換が求められている。

その手法の確立や事業化に向けた実験中。



生態系の拡張原理に基づく畑



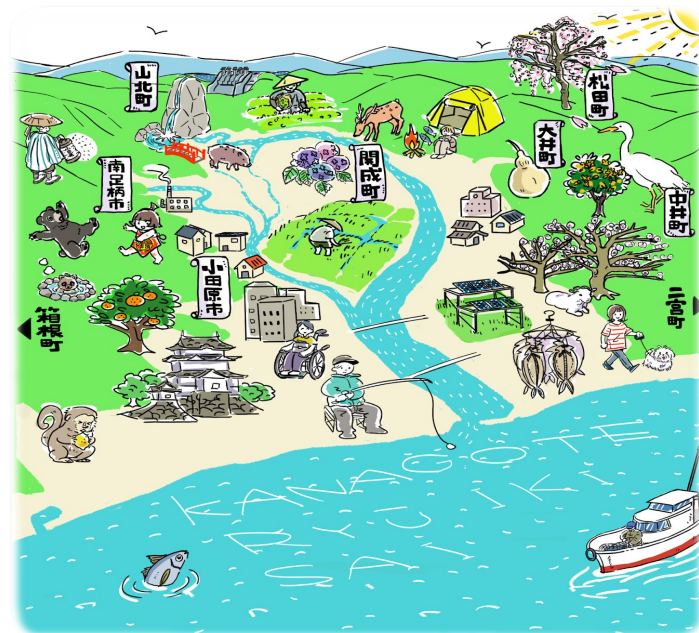
人と自然の持続可能なつながりの再構築

#まちづくり #Web製作

「人と自然の持続可能なつながりを再構築する」をコンセプトに、小田原市でイベントを開催。マルシェ、ワークショップ、トークイベント、ダンス、上映会、音楽ライブなどが集うお祭り。



「かなごて流域祭」



「酒匂川流域マップ」

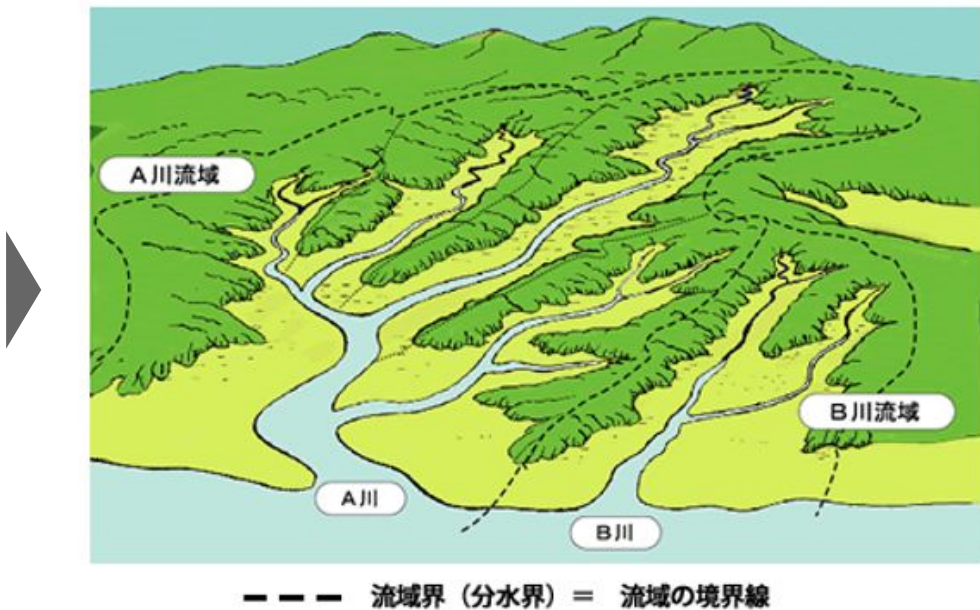
行政区域を流域で再定義していく #まちづくり

人工的な分けではなく、自然資源の循環の視点から捉える

行政区画の市町村



流域イメージ図



流域とは...？

酒匂川流域に健全な循環を。

丹沢と箱根に広がる山々。
そこから流れる水に関わる森里川海の一連のつながりと、
その領域で育まれる生業や文化などの全体を1つの流域と捉える。

私たちが普段享受している美味しいお米や野菜、酒や魚。
使っている水や製品、住居など、生活を成り立たせるものの多くは、
その流域の森や土壌などの自然生態系に依存している。

この流域の森の状態が健全に保たれ、農作方法や暮らしが
環境に配慮されたものでなければ、水質悪化や水不足、生物多様性の喪失、
土砂災害や洪水リスクの増加を通して、その恩恵は失われてしまう。

地球温暖化による気候変動、豪雨・土砂災害が増え、
日本で担い手が減少する中で、もう一度私たちの暮らしを支える
流域全体のつながりに目を向けてみるのはどうだろうか。

今回のイベントはそんな背景から流域祭と名づけています。



流域内の人のつながり、共通意識の循環



社会起業家育成プログラム

地域課題に挑む 社会起業家育成プログラム

【かなごて農学校「推譲館」】の実施

小田原市を始めとする神奈川県西部2市8町（酒匂川流域圏）をフィールドに、

農業や林業、海など地域の一次産業領域をはじめ、

気候危機、サーキュラーエコノミー、思想哲学、事業構想レクチャー

など様々な視点を、合宿を含めた8つのメイン講座から学び、事業を企てていくプログラム。

地球規模の視点を持って思考を組み立て、地域に根差した本質的な変化を創り出すためのエッセンスを仲間と共に学び、それぞれの答えを探していく。そんなローカルな社会起業家育成プログラム

地域にある様々な課題を1次産業に特化して探り、解決策をデザインできる人を育むことを目的に開校します。

今回のキーワードは"流域思想"と"報徳思想"

プログラムへの参加お申し込みはこちらから



行政区画に縛られず、同一経済圏（流域）の課題をまとめて解決するという視点、その際の思想的バックボーンとしての報徳思想についても学び合い、答えを考えます。

主催 合同会社小田原かなごてファーム

プログラム受講費（全講座）

- ・ 学割：5,000円
- ・ U30：10,000円
- ・ 一般：15,000円

※交通費、宿泊費等除く

THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY

かなごて農学校「推譲館」

地域課題に挑む ~社会起業家育成プログラム~

講師			プログラム									
 加藤 重一 農学博士 農学博士	 中村 社一郎 (株) エコシステム ディレクター	 佐伯 謙人 (一財) シンクアイ 代表理事	2023年 8/27(日) 9/18(月/祝) 9/28(木) 10/11(水) 10/21(土) 11/5(日) 11/11-12 (土日) 1/13(土)	2024年 1/13(土)	～オリエンテーション～ 「流域思想・課題の構造化を学ぶ」 @現地	「自然栽培と農福連携の可能性」 @現地	「サーキュラーデザイン」 @オンライン	「海洋と暮らしのつながり」 @オンライン	「森と生きる暮らし方~林業~」 @現地	「気候変動とエネルギー」 @現地 ～ソーラーシェアリング・バイオマス・那珂～	～一泊二日の事業構想合宿～ 「2層金次郎と環境思想」 @現地 「地域活性と事業構想」 @現地	～最終発表～ @現地

本事業は、農林水産省農山漁村振興交付金を受けて開催しています。

地域課題に挑む 社会起業家育成プログラム【かなごて農学校「推譲館」】



地域課題に挑む 社会起業家育成プログラム【かなごて農学校「推奨館」】



森林と人の新たな関係性をつくる #林業

✓ 森と生きる

先人より受け継がれてきた
豊かな森林資源を守り活かすこと

✓ 人と営む

この土地での人の縁を紡ぎ
林業の担い手たちを育てる

✓ 街にめぐる

街に森と人が重なり合い
新たな文化を創造する循環を生むこと



PROJECT

circle × 南足柄 はじまりの回

森林と人、
持続的な暮らし
を考える。



サステナブル実験都市構想
スタディツアーの企画運営



木製品企画



地域交流拠点mado.



Ashigara Worcation



ひと箱本棚オーナー

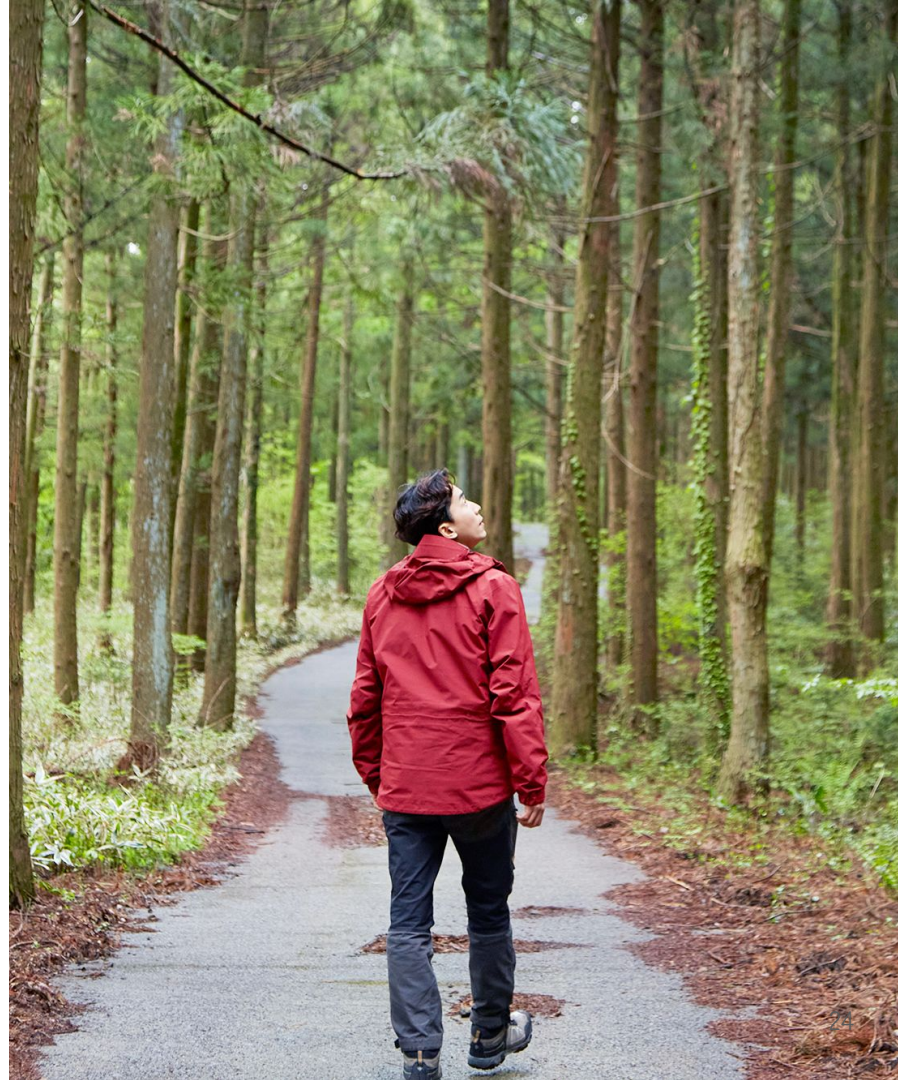


森林管理・木材流通

 circle × 南足柄

はじまりの回

森林と人、
持続的な暮らしを考える。



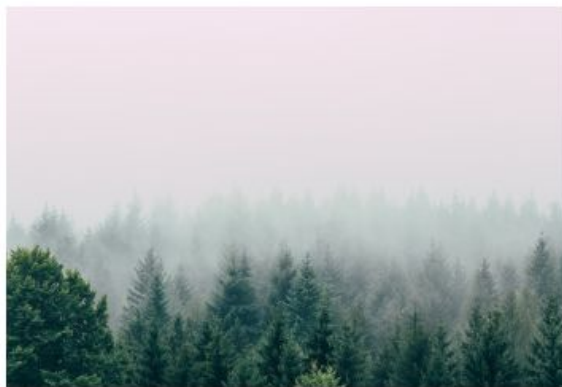
3つのテーマ

+EVカーシェア eemo



移住・関係人口・空き家の活用

人口減少・高齢化により、空き家が増えています。が、「移住」や「住まい」だけではない空き家活用の必要性を感じています。箱根や小田原という人気観光スポットの中継地である南足柄市で、滞在していただき、ここだけにしかない魅力を発見していきましょう。



森林資源の活用

南足柄は7割が森林で、杉や檜といった人工林が育っています。しかし、これだけの資源がありながら、地域の木材が有効に活用されていないのが現状です。林業の課題や木材価値の現実をお伝えしつつ、森林の有効活用を一緒に考えていきましょう。



有害鳥獣の活用

シカやイノシシなど、野生鳥獣による農林産物への被害は年々増加しています。また、森林の下層植物を食べ尽くすシカは植物の多様性を奪い、森林の崩壊にもつながります。一方、ジビエをはじめ、ペットフード・革製品など、捕獲した野生動物は可能性に溢れています。





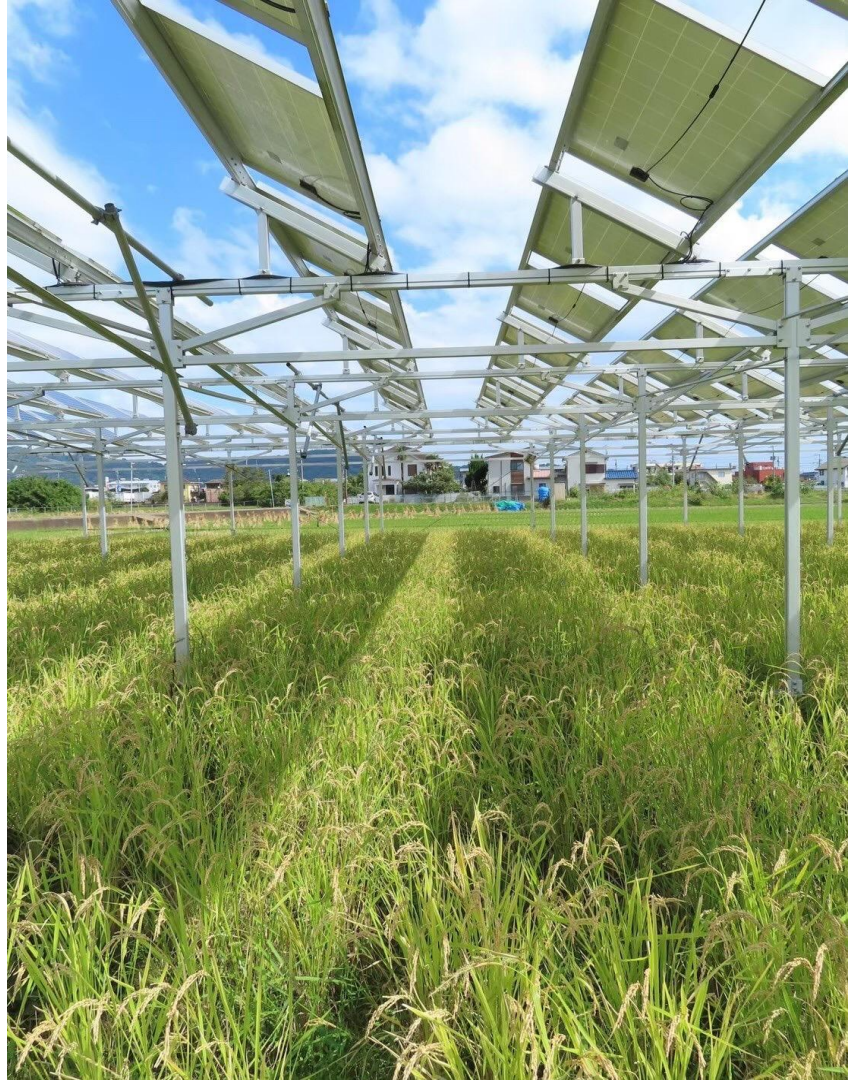
持続可能な地域と次世代農業をサポート

- ✓ ソーラーシェアリングに関する
事業開発・コンサルティング・研究
- ✓ 温暖化対策支援（企業、自治体）



千葉エコ・エネルギー株式会社

地域に根差した小規模
ソーラーシェアリングの可能性



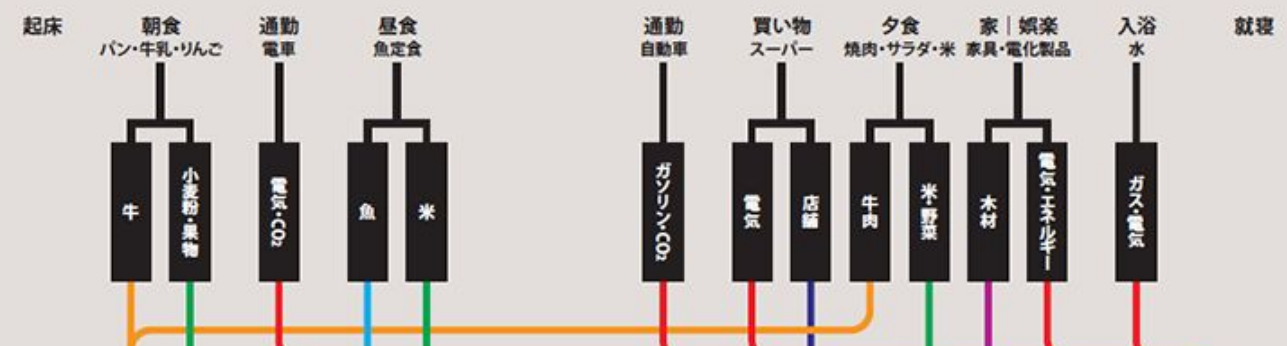
なぜソーラーシェアリングに関わるのか？

意識と生産の喪失（無自覚化と部品化）

グローバル化や分業化を経て、あらゆる生産活動が外部化され、お金で何でも間接的に解決するようになったことで、

人間としての生を取り巻くあらゆる物事とその背景を認知し、**思いを馳せることが出来なくなっている。**

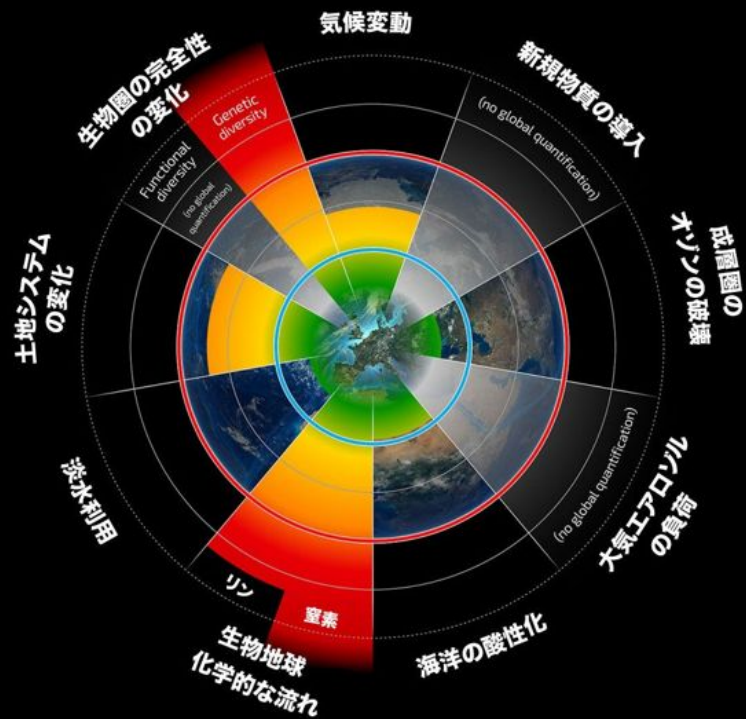
それが今起きている気候変動をはじめ、環境問題、社会課題の大きな要因の一つ



自分の暮らしが、誰かや生態系の犠牲の上に成り立っているという不都合な真実。



プラネタリーバウンダリー



1, 地球的境界と日本の状況

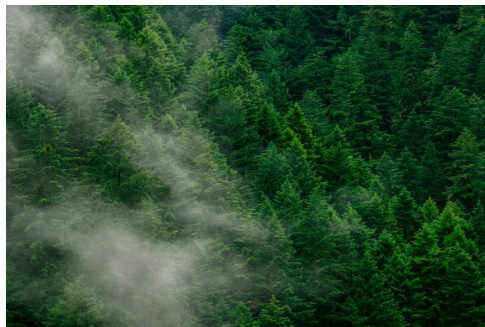
	日本	一人あたりの地球的境界	単位
CO2	12.4	1.6	1年あたりのCO2排出量 (t)
P (リン)	4.6	0.9	1年あたりのP投入量 (kg)
N (窒素)	34.5	8.9	1年あたりのN投入量 (kg)
淡水	249	574	1年あたりの水の使用量 (m3)
eHANPP(純一次生産)	1.6	2.6	1年あたりのC生産量 (トン)
エコロジカルフットプリント	3.8	1.7	1年あたりのグローバルヘクタール (gha)
マテリアルフットプリント	28.5	7.2	1年あたりの重量 (トン)

地域基盤産業の衰退と外部の喪失

林業従事者の減少

1960年代に43.9万人程度

2020年には **4.4万人**に減少



▼ 土壌劣化、森林破壊



農業従事者の減少

1960年代では1500万人程度

2022年には **123万人**にまで減少



意識と生産の喪失

何を食べるのか、何を使うのか、**その背景には何があるのか。**

どんな人がどんな思いや境遇で働いているのか。

その人には、どんな暮らしや家庭があって、
子供は不自由なく育つことができているか など

そうした背景に気付けなくなっている

なぜソーラーシェアリングに関わるのか？

関わりを持てる範囲で食糧とエネルギーを自給していく。時には収穫の手伝いにもっとみる。
そんな関係性の上に成り立つ、顔の見える暮らしを取り戻していく。



なぜソーラーシェアリングに関わるのか？

想像の及ぶ範囲に、
人々の理性や感情が駆動する範囲内に、
暮らしを取り戻していく。

人と自然との関係性を再構築していく。

その一つの手段として。



ソーラーシェアリングの意義と可能性

- ① 気候変動の抑制（再生可能エネルギー）
- ② 耕作放棄地を再生・農業の経済性改善と、農業従事者の増加
- ③ 食とエネルギーの地域自給・循環・レジリエンスの向上
- ④ 顔の見える関係性。暮らしと関心を自分達の手に取り戻す。
- ⑤ ローカル/小規模化による民主主義の再起動。
- ⑥ 地域産業の振興（育てたお米は、地元酒造にて日本酒に） ……など

ソーラーシェアリングに関する取組み

ソーラーシェアリングに関する取組み

① 「松田町ソーラーシェアリング検討協議会」

(地域循環型エネルギーシステム構築事業 ※みどりの食料システム戦略推進交付金)

- ソーラーシェアリングの普及に向けた、建設ノウハウの体系化（実務面・金融面を軸に）
（松田町の地域特性を考慮した導入可能性検討、全国的普及の阻害要因の分析）
- 木製架台の導入可能性検証

② 「Z世代によるソーラーシェアリングの立上げ」

- 「誰もが担い手になれるように。」
実績も経験もお金もない若手世代が担い手になる/導入を身近な選択肢にする方法として実施。
- 補助金申請/施工依頼/農地転用申請等の手続き。等

③ 先進事例の調査、担い手創出方法の検討等

- 先進事例調査、課題分析
- セミナーの実施、担い手創出プログラムの検討



普及に向けて

①松田町ソーラーシェアリング検討協議会

ソーラーシェアリングの普及における課題

ソーラーシェアリングの普及はその数は増加しているものの、スピードと量は不十分な現状にある。

<松田町ソーラーシェアリング検討協議会にて扱った課題>

- **事業主体となる担い手不足**
 - 農業の担い手不足（少子高齢化、農山村の人口流出、経済性...等）
 - 長期間の営農義務
 - 再エネ事業の担い手不足
- **資金調達のハードル**
 - 初期投資コスト
 - 事業の継続性におけるリスク
 - 資金提供側のスキームやノウハウの未確立
- **制度面（申請、補助金、評価指標）のハードル**

地域に根差した

小規模ソーラーシェアリング 実践マニュアル

～神奈川県松田町・小田原市の事例を中心に～



～令和5年3月～

今後、担い手を創出するには？

小規模のソーラーシェアリングが1つ2つ出来ただけでは、
刻々と深刻さを増す気候危機の解決には、間に合わない。

「誰もが担い手となれる」条件を整え、多数者による自律分散的な導入が求められる。

・・・気候変動に関心があれば、すぐに事業主体として踏み出せるような。



誰もが担い手となれる条件とは？

気候危機を訴えるZ世代の若者達。

その深刻さを伝える役割を担っていることが多いものの、

若者たち自身が構造転換に向けた実態をつくる動きは、
まだあまり多くない。

なぜか？ 何がその行動を阻害しているのか？

気候変動、エネルギー問題に関心があり、
ソーラーシェアリングに意義と可能性を見出している。
それでも、まだ踏み出せていないターゲットに聞いてみる。

一番身近な担い手候補。わたし。

若者でも、いまずぐ担い手になるには？

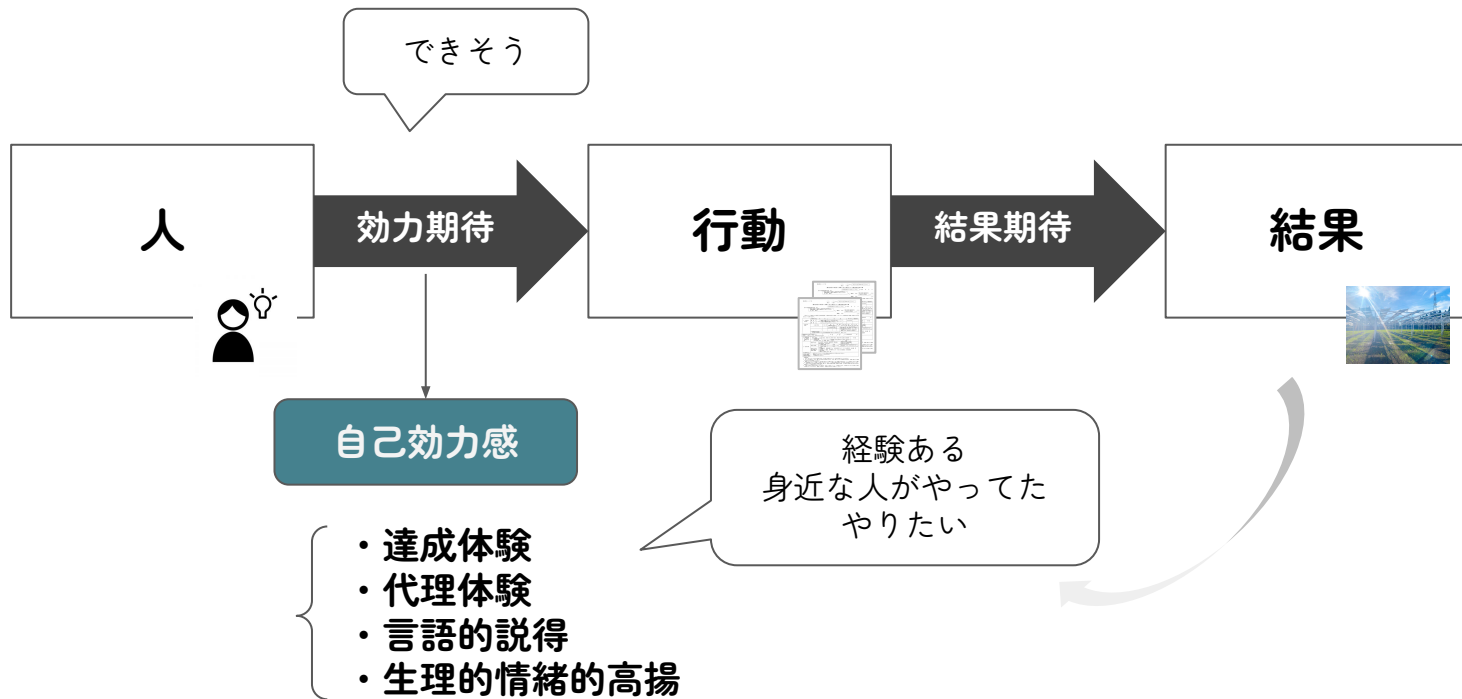
- **① 実績と資本がなく、資金調達にハードル**
 - 金融機関も実績や資本もない若者に、容易には貸せない。
 - 小規模でNon-FITの場合、補助金がなければ経済的インセンティブは小さい
- **② 営農義務や投資回収期間も10年～20年と長いため事業継続リスクとなる**
(長期間請け負える担い手も少数、融資もしづらい)
- **③ 地理空間的な制約の重さ。**
 - 耐用年数および投資回収期間である20年～30年も、**同じ土地で生き続け、営農し続ける判断をするのは、躊躇する。**
(人口の一極集中構造と流動性の高まった社会状況では、そういう人は少なくないはず。)
- **④ 「さあ、つくろう！」と言えるほど身近な選択肢でない。知識や経験もない。**
 - そもそも発電所を建てることは、まだ身近な選択肢として認識されていない。
 - 自分が建てれる/建てようと思えていない、そのノウハウやプロセスも伝わっていない。

→でも気候危機を何とかしたい。耕作放棄地も増加傾向。

仮説・実験 — 若者でも、いますぐ担い手になるには？

- ① 資金調達ハードル（実績と資本不足）
 - 既にお実績と信頼のある事業主体のもとで、立上げ or 修行する。（伝道師育成）
 - クラウドファンディング、私募債などによる民間調達。
- ② 事業継続リスク（20年程度）
- ③ 20-30年間の地理空間的な制約・選択の重さ
 - **個人ではなく、コミュニティ経営による負荷とリスクの分散**
近隣地域圏の地域住民・共感コミュニティによる共同経営・労働体制の構築
共同財産化、市民発電&市民農園化による地域コミュニティの活性化
- ④ 身近な選択肢でない。知識や経験も不十分。
 - **普通の若者でも立ち上げられた事例と情報発信。ノウハウの体系化とオープン化。**

選択肢の身近化、ノウハウのオープン化による誘因設計



② 「Z世代によるソーラーシェアリングの立上げ」

選択肢の身近化と、ノウハウのオープン化による正の循環

1, 私たち自身が一度立ち上げてみよう。

一度経験してみて、ノウハウをオープンにする



2, 「若者でも作れるんだ」「つくりかたもイメージできる。」

「なら私にもできそう」「やってみよう」

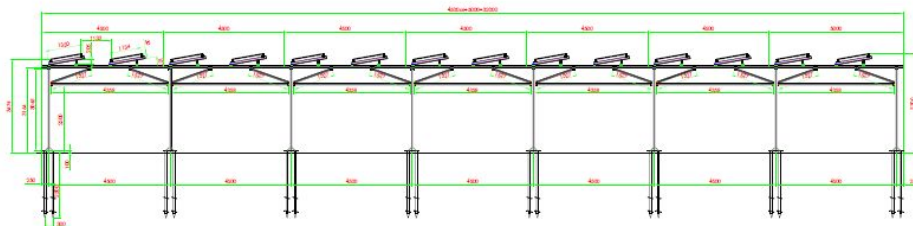


3, やっている人が身近にいる環境条件が揃う。「わたしもやれるかも」の循環

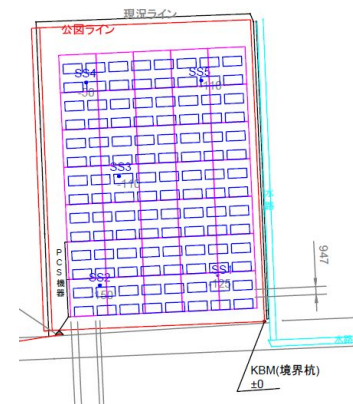
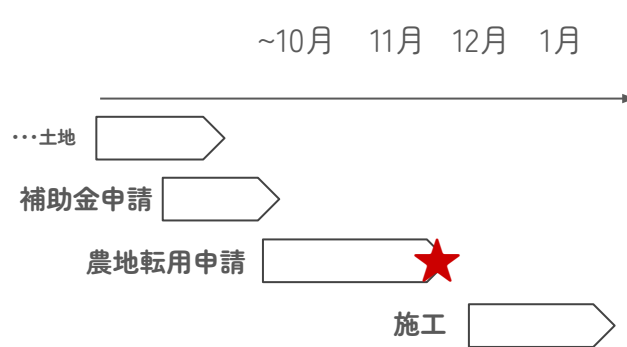
→6号機を立ち上げ手続き中。

小田原市高田ソーラーシェアリング（6号機）

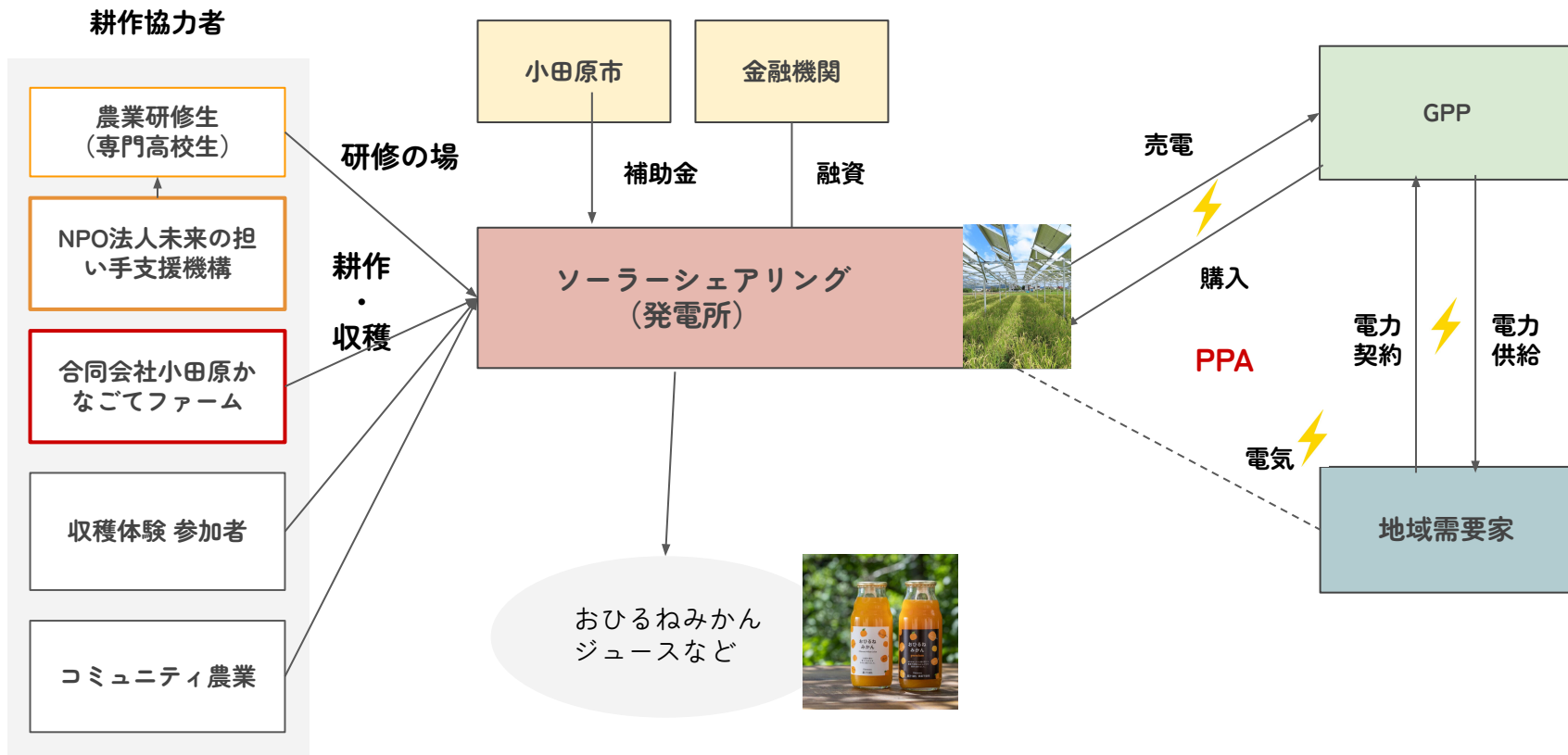
- 発電種別 : ソーラーシェアリング
- 用地 : 荒廃農地
- 完工時期 : 2024年 1月
- 出力 : AC44kW (パネル容量DC61.6kW)
- 遮光率 : 40%
- 発電量 : 70,286kWh /年
- CO2 排出削減量 : 27,236 (CO2-kg) /年
- 発電者 : 合同会社小田原かなごてファーム
- 所在地 : 神奈川県小田原市高田
- 栽培作物 : みかん



○ スケジュール



プロジェクト全体像



最後に、今後に向けて

コミュニティ農業の可能性と実験

- 農業の経済性の低さ、労働負荷の高さ

農業は、経済性は低い上に、年間を通してこまめな手入れと肉体的な労働負荷を要するため、人を選ぶ。一次産業のみで採算をとる必要はないのでは。

- 生産と消費を共にするコミュニティによって、共同経営・労働・出資する形態で運営。

農産物を不特定の方に販売し収益を得る一方通行型の事業スキームと異なり、コストと労働負荷も分散することで、気軽に「やってみたい」というきっかけから多様な主体に農業との接点を提供できる。生産プロセスすらコミュニティ醸成と体験価値に変わる。

- 今後の持続的な農業の在り方の1つ。
(農林エネ、その他にも通ずる)



費用項目	金額
苗代	¥ 6,400
土地代	¥ 7,500
籾摺り・乾燥機	¥ 7,200
総計	¥ 21,100
メンバー (人)	6
按分額	¥ 3,517



流域自給圏の構築へ

#参加型まちづくり #持続可能性 #ウェルビーイング

「衣・食・住(木材)・医療・福祉・教育・コミュニティ・エネルギー・自然環境、素材、意志決定権・・・などの生活要件を、外部に依存せず一定の圏域(流域)内で自給し、供給しあえる体制を構築する。」

一定の圏域内で、ある程度の活動を循環させることが、
人と人との関係性を醸成し、分断の解消につながり、
地域産業や資源・環境と触れやすい環境条件があるために、
その**自然的な制約や節度、環境負荷などにも思いを馳せることができるようになる。**
(顔の見える暮らし、共同体感覚、全体性の獲得)

そうしてはじめて、**人間的な理性と感情が駆動し始める**のではないか。

狭义的な経済合理性に偏り、グローバル化・分業化したことで、
世界が不可視化され、認知できなくなったことで、社会・環境課題が深刻化している現代において、

こうした**本来的な人と自然とのつながりを取り戻すことが必要。**

流域自給圏の構築へ

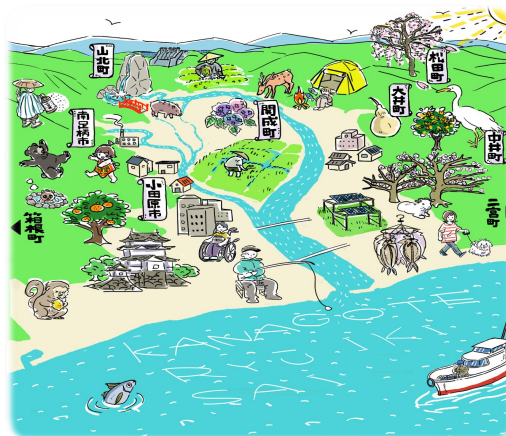
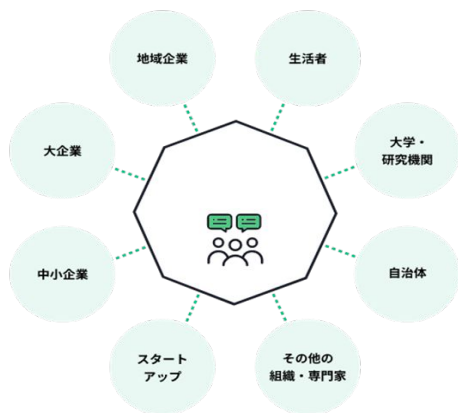
#参加型まちづくり #持続可能性 #ウェルビーイング

地域における様々な主体自身が、地域を自分ゴトとして、担い手として参画し、共に持続的なまちの要件を創っていく。

そうした営みの連続性＝地域における動的平衡が、持続可能なまちの条件となる。

そのはじまりとして、食とエネルギー、コミュニティの自給からはじめていく。

酒匂川流域循環共生圏



■ ほかのPJTメンバー紹介

PJTメンバー紹介

<小山田大和（おやまだやまと）>

- ・「合同会社小田原かなごてファーム」代表
- ・「かなごて農学校推譲館」校長 ほか



PJTメンバー紹介

<中嶋拓未（なかじまたくみ）>

○所属

プラントエンジニアリング会社、合同会社小田原かなごてファーム

○背景情報

会社での経験がきっかけとなり、環境問題を始めとした社会課題への危機感・加害者性に気づき、活動を始める。

お金がないと生きていけない都市生活、その都市への人口集中が進む中で、自分達で食べ物やエネルギーを作ること、地域を活性化させることを通して、新たな価値観・ライフスタイルの提示を目指している。この他、スポーツを通じた子どもの教育事業にも関わる。



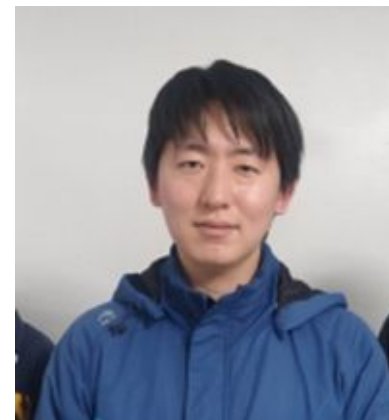
<石橋卓郎（いしばしたくろう）>

○所属

NPO法人未来の担い手支援機構 代表理事長

○背景情報

電気通信大学に在学中に、全国の農業高校を支援するプロジェクトに携わり、日本の農業や教育、地方の実情を知る。その後、大学ベンチャーABN.IIcとして、地域づくりや教育面をITでサポート。2022年には、NPO法人未来の担い手支援機構（NPOみらいて）を立ち上げ、教育を始め未来を担う若者たちに資する活動や、その支援者を集める活動を行っている。「NPOみらいて」は、神奈川県教育委員会のデュアルシステム推進センターとして、専門高校（農/工/商業高校など）の企業実践学習のコーディネートを通じて、若者が社会に通じる力を身に付ける支援を行っている。



ありがとうございました。

皆さまと意見交換などできましたら幸いです。

参考

新たな社会システムの構築

ソーラーシェアリングは、資本主義社会システムからの転換をもたらす有機的ネットワークの一条件として位置付けられる。

実態のある有機的なベーシックサービスの共給共足ネットワークが必要となり、その食料・エネルギー分野の必須要素と言える。

また、再エネもただ導入されれば良いわけではない。何も考えず進めては、限られた主体による資本や資源の独占、植民地主義的な搾取構造が出来上がり、格差構造が固定化されてしまう。

脱炭素対策と共に、食料・農業・林業・医療福祉、教育、エネルギー、民主主義的思考...etcを、市民の手に取り戻していく試み・体制の構築が不可欠。

資本主義を越えた先の景色も見据えて

資本の論理に依存することによって、社会・環境的な合理性が歪まされている。それによって、社会/環境課題が生じ、深刻化し続け、1人ひとりの人間存在がやりたいこと、表現したいことも抑圧されている。

この問題が自分が一番、心の底から解決したいこと。

「人々の健康的な生存要件（ベーシックサービス）」が、生活圏・コミュニティの中で有機的に創り上げられ、相互に保障された状態が構築できれば、資本主義的な強制力から脱却した、本来的な人間的活動や判断も可能になる。

意思決定・社会発展に資本の論理が入り込まない社会。競争や成長を強制されない社会において、社会的に必要な意思決定・行動を、資本効率に囚われることなく、必要な時に、必要な人が、必要な分だけ、社会的節度の範囲内で選択できる。

旧態依然とした組織や規則、持続不可能な経済産業構造も、無理に維持する必要はなくなり、間違えた選択や構造を、人類は今すぐ改善に動くことができるようになるはず。人は、その存在と可能性を資本的な制約なく、表現することができるようになるはず。そんな世界をわたしは見たい。まこを

(※活動や発展の上限は、資本総量ではなく、社会的実態および可動量によって規定される。)

資本主義を越えた先の景色も見据えて

資本の論理に依存することによって、社会・環境的な合理性が歪まされている。

1人ひとりの人間存在がやりたいこと、表現したいことが抑圧されている。

この問題が自分が一番、心の底から解決したいこと。

資本主義を越えた先の景色も見据えて

「人々の健康的な生存要件（ベーシックサービス）」が、生活圏・コミュニティの中で有機的に創り上げられ、相互に保障された状態が構築できれば、

資本主義的な強制力から脱却した、本来的な人間の活動や判断が可能になる。

意思決定・社会発展に資本の論理が入り込まない社会。

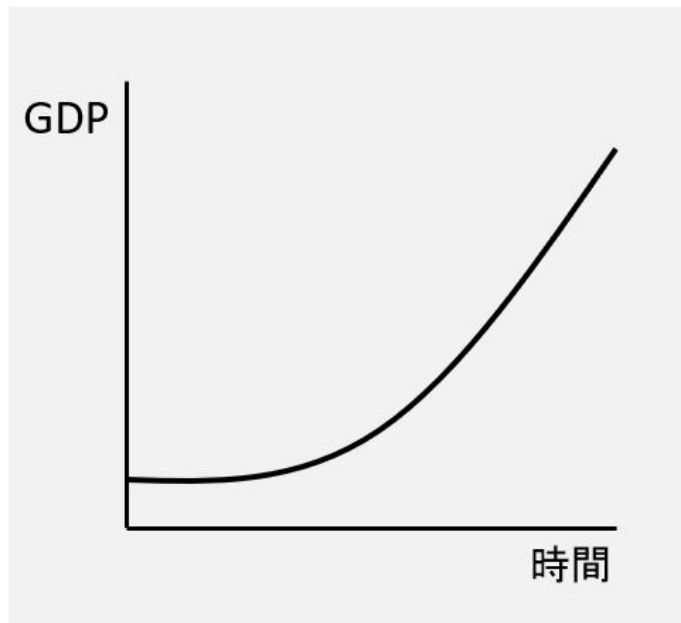
競争や成長を強制されない社会において、社会的に必要な意思決定・行動を、資本効率に囚われることなく、思考・判断・行動できるようになる。

（※活動や発展の上限は、資本総量ではなく、社会的実態および可動量によって規定。）

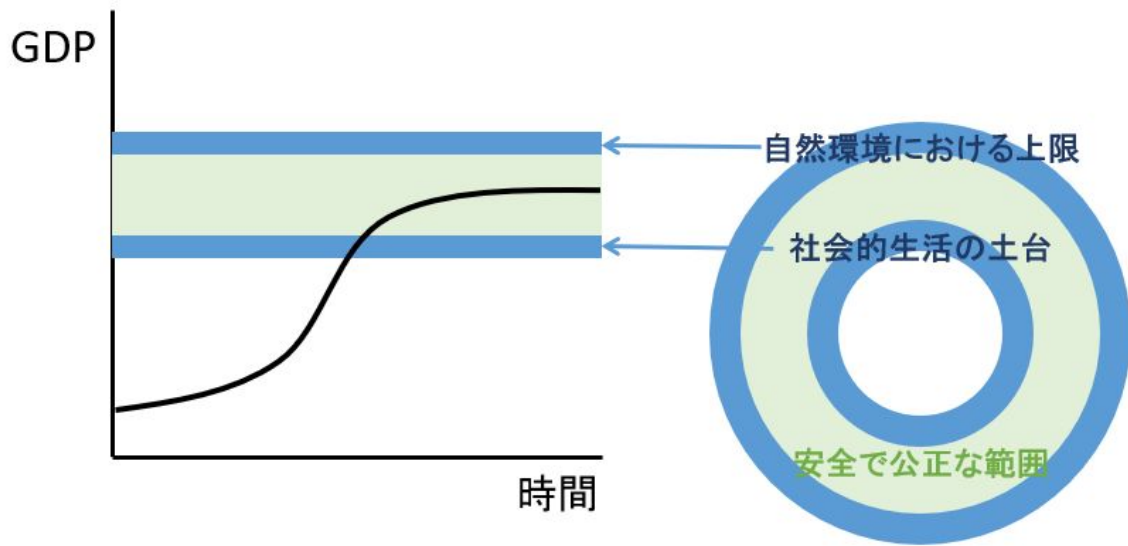
旧態依然とした組織や規則、持続不可能な経済産業構造も、無理に維持する必要はなくなり、間違えた選択や構造も、人類は今すぐ改善に動くことができるようになるはず。

人はその存在と可能性を資本的な制約なく、表現することができるようになるはず。

指標の転換 - 経済成長依存からの脱却 -



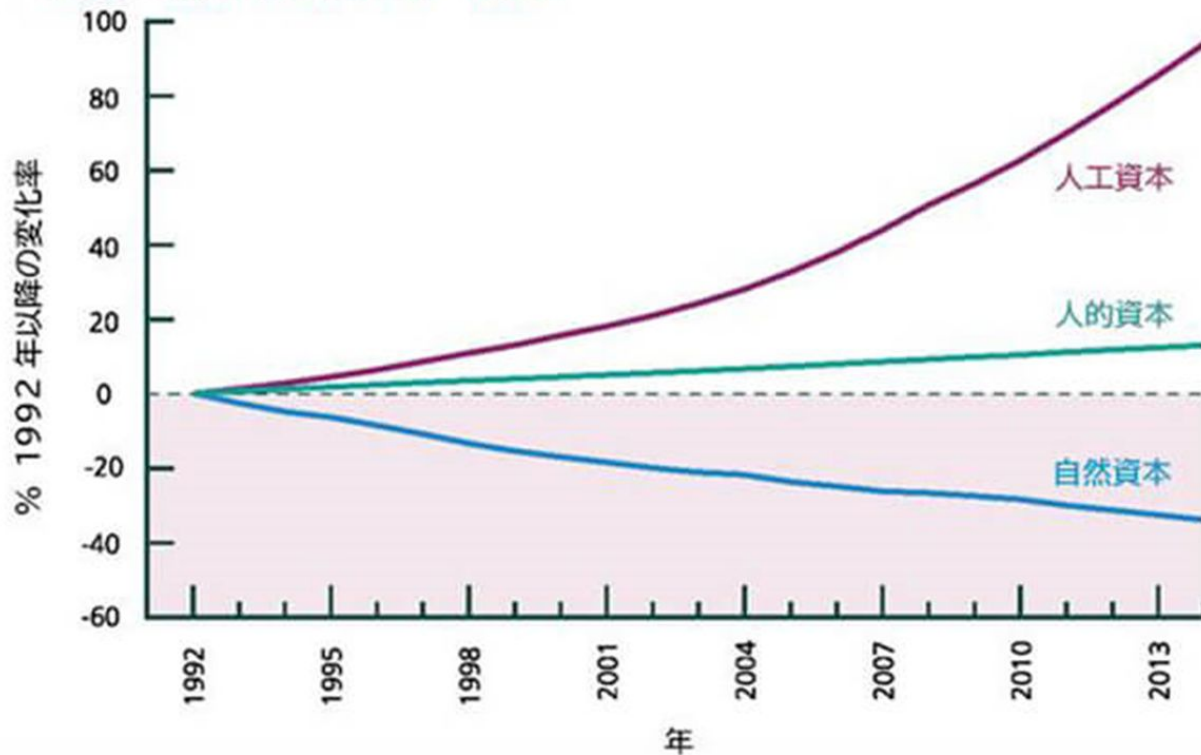
指数関数的な成長曲線



成長のS字曲線

資本主義の矛盾と外部性

1人当たりの世界の富, 1992~2014

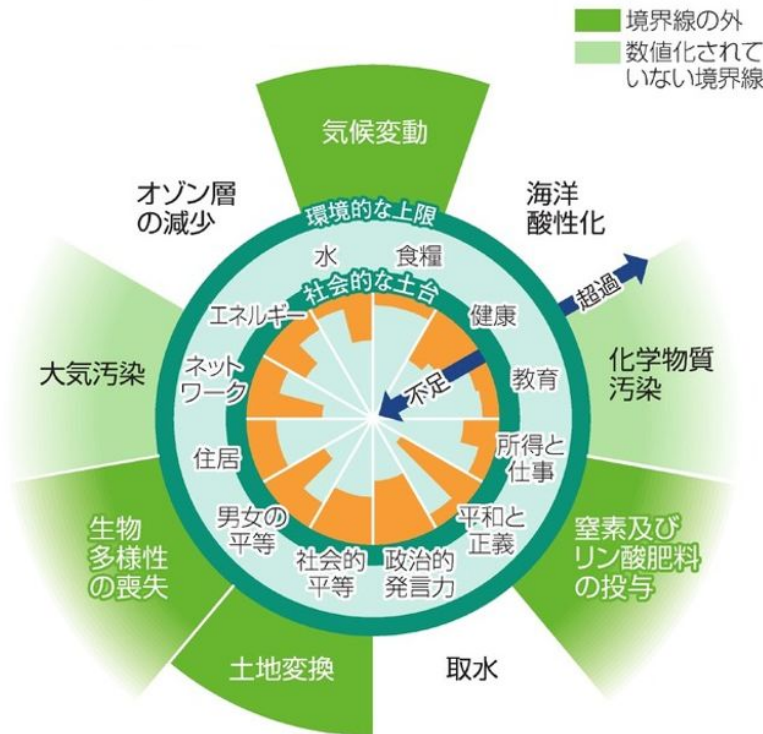


地球の限られた資源の範囲内ですべての人々の社会的公正を実現する。

The Doughnut of social and planetary boundaries

ECOLOGICAL CEILING (地球的限界)

- 気候変動
- 海洋酸性化
- 化学汚染
- 窒素とリンの投与
- 取水
- 土地転換
- 生物多様性喪失
- 大気汚染
- オゾン層の破壊



SOCIAL CEILING (社会的限界、社会的公正)

- 食料
- 健康
- 教育
- 収入と仕事
- 平和と正義
- 政治的発言
- 社会的平等
- ジェンダー平等
- 住居
- ネットワーク
- エネルギー
- 水

経済合理性の外側にある社会課題

- 気候変動
- 格差・貧困
- 家事・育児
- 一次産業
- 地方
- 教育
- 自然環境

